



号 刊 創
70.7.20

学苑会事務局

(運営室・出版部担当)

丁。11月学苑会学生大会に於て、我々新執行部が選出され、奔電長には小島保雄君が推された。

11月の総統選挙では尾形の、11月学苑会学生大会で審議されたものとだは議案書の附記表によれば、反対の保留で採決し正。その後文芸一年等から出された対案書でこれに該当政社學会から出された附帯決議案がつくりと政研等から出された対案書との二つの対案書の審議とし、28対32(保留)を棄権して後者の対案書が採択された。

しかし、学苑会の内閣は、二点から運動を進めてこゝへ上り立つにあらう個性を進められたのではなくべく、我々政研等から出された政研書の支持者の全員にてたる甘利、また我々が過去に「アーチ」、「弘明園」、「」に対する意見書に対処する一にしからず単に「アーチ」、「セクター」とこの日発行する意見書からとが発言などをなすが、正

に、一年文芸一年等から出された対案書の支持者も便達が何故、学苑会学生大会とこの公の場に登場してゐるか、どこでいつ何時何處で何と争ひたとの原因があるのではないか。

○ 守保一曰米共回声明

れ以後の連続の困難性を如實に如実に現出せしめ、これが、我々が常に主張する所へとアーチの問題をめぐらす問題の本質を明確に示すものである。

○ 謝がゆの守館を乱せの

行為が既に起つたのを知り、我々は再び、

○ 審斗争勝利！

。 政治力・軍事力の所持して「アーチ・セクター群団」の

○ 動出走！

反向態にして、政治力を有さなければならぬ。今秋に設定されたとして自らが軍事力・政治力を持つた斗争を組む一契約

として学苑会運動を範囲付けてからである。これは単に競争運合が金銭斗争の野合性を批判したことでもそれだけではないこと、どうせない。我々自身のある意味では愛米の野合よりも至りを野合性と如何に止揚するのかという観察がうなされなければならぬ。

もはやへきれいことへはこじて、アーチの争奪は終わつたのだと、圓心の思想・即ちの抽象化・具体化・物理化を今後素直に用意されねばならない。カンパニア・モンゴタード、被覆を打破した市のノンセクター群団の創出と甲子年に計り、我々自身の日本ヒヤー競輪に結集せつる時既西山眞舟が好戦活動の中から創り上げた「

。 こう、なぜづき。

タ学苑会執行部は明大正郎に玄洞に存仕してアーチ反体制のエネルギーと、共に燃え放つ中で、積集してこゝにとて宣べる。

。